



International Institute of Multi-cultural Studies

特定非営利活動法人

# 国際比較文化研究所

■ Newsletter ■

Vol. 11 No. 1 2010年 6月

## ■ 総会報告 ■

2010年5月29日、安中公民館で本年度の総会が開催された。2009年度の事業報告、決算報告、監査報告、さらに2010年度の事業計画、予算などが審議された。

2009年度の活動報告の中ではMANAPAL設立が特筆すべき新しい動きであった。未就学児、小学校低学年向けの「こども英会話くらぶ」、小学校高学年英語教室、中高生や社会人対象の個人レッスンも含め、約60名がマナパル生となってきている。いわゆる「塾」という概念ではなく、現代の子たちの成長を支える教育施設として、この活動を継続していきたいと考えている。

研究会・講演会の分野では、9月にえびす神社神主、中川久公氏の「日本人の心性を探る～雅楽を通して～」をNPO法人スピリット・ネットワークぐんまとの共催で開催。10月には俳優・歌手の冷泉公裕氏の「冷泉ライブ」(歌&お話)を喫茶めりっとはうすにて開催。1月にはマナパルに中村洋一氏を招き「いなかなイト」と称したイベントを開催し、アメリカ文化とカントリーミュージックについてお話と歌を聴くことができた。

交流活動としては「多文化交流 in マラン」の他、新たに「多文化交流 in 釜山」をスタート。また招聘活動も「多文化交流 in 関東」として実施。多くの若者が参加し、感動を分かち合ってくれた。

言語・文化教育活動の支出が突出しているが、これはマナパル設立準備に要した経費で二年以内に返済する予定である。

### 2009年度決算・2010年度予算

○収入の部	2009年度決算	2010年度予算
1、財産運用収入		
利息収入	67	70
2、会費収入		
正会員費	324,000	300,000
団体会員費	10,000	10,000
3、事業収入		
研究会・講演会	0	0
国際理解教育指導者養成	0	0
留学支援	110,000	0
海外研修	0	0
学会活動支援	121,760	100,000
言語・文化教育	365,500	3,000,000
多文化交流	2,188,000	2,500,000
特定事業	0	
4、寄付収入		
多文化交流事業寄付	440,000	200,000
言語文化教育事業寄付	27,750	
一般寄付	200,444	200,000
5、雑収入		

雑入	55,000	
当期収入合計	3,842,521	6310070
○支出の部		
2、研究会・講演会	81,210	100,000
4、留学支援	9,690	0
6、学会支援活動	55,020	100,000
7、言語・文化教育	1,518,169	2,600,000
8、多文化交流	2,252,288	2,400,000
10、管理費		
賃金	3,000	50,000
事務費	172,998	200,000
通信費	190,221	250,000
電気料	45,531	60,000
理事会費	0	5,000
広告宣伝費	0	30,000
食糧費	4,360	0
旅費	68,700	20,000
負担金	33,000	23,000
手数料	20,205	30,000
12、予備費		30,000
13、返還金	375,000	0
14、繰出金	27,750	0
当期支出合計	4,857,124	5898000
当期収支差額	-1,014,603	412070
前期繰越収支差額	633,353	-381,250
次期繰越収支差額	-381,250	30820

## 役員人事

今年役員改選の年であった。研究所設立以来10年間にわたり御苦勞頂いた井殿園氏、福田英作氏にはそれぞれの御事情に鑑み副理事長の職を解き、今後は研究所の顧問としてご指導頂くこととなった。

新理事・監事は下記の通り。(新任)以外は再任。敬称略。

- ・顧問 井殿園、福田英作
- ・理事長 太田敬雄 ・副理事長 伊藤成、野口紀子(新任)、関千景(新任)
- ・理事 森泉寿義雄、金井美由紀、狩野真由美、福田則行(新任)、太田琢雄(新任)
- ・監事 木村隆、幸田一彦

なお、研究所長の任は太田敬雄が、副所長は太田琢雄が継続してその任を果たす。

今回の人事で若いエネルギーを役員の中に加えることが出来た。これは次なる10年の活動のためにも期待されたことであり、その必要性にこたえられる人事となった。「相互理解に基づいた、より豊かで平和な地球を創るために」これからの10年も頑張っていきたいものである。同時にこれまでの井殿氏、福田氏の多大なご尽力に深く感謝を申し上げたい。

以上を持って総会報告とする。

## ■西安からの留学生、王媛さんを囲んで懇談会■

一橋大学大学院言語社会研究科の博士後期課程で学ぶ王媛さんは日本の民俗研究を研究している若い研究者です。彼女は修士課程で河童の研究をし、博士課程に入ってから伝承民俗の稚児や童の研究をしています。

昔、ルース・ベネディクトが『菊と刀』(1946出版)という日本研究書を出版し、それを読んで日本の特徴に気付いた日本人も多かった。王さんの民俗研究は、ベネディクトが捕らえきれなかった日本を明るみに出してくれるのではないかと期待しています。(別紙参照)

## ■「多文化交流」諸々■

### ①2002年に実施した「多文化交流 in ぐんま」ホストファミリーより

今から8年前の2002年、現在の「多文化交流」の原型となった「多文化交流 in ぐんま 2002」が外務省2002年日中韓国民交流年記念事業として開催されました。それは韓国、中国、日本の大学生30名が群馬に結集し、9日間を共に過ごすというプログラムでした。

先日、そのプログラムでホストファミリーをして下さった太田一郎氏よりメッセージが寄せられました。

#### 8年ぶりの中国での再会 太田一郎（高崎在住）

「8年前のことです。当時私は55才。NPO法人国際比較文化研究所を通じ高崎国際交流協会の要請で中国南京師範大学の女子学生をホームステイに受け入れました。

2年前私は定年退職し中国の某会社より再就職の話が有り無錫に就任。その折彼女に電話したら「是非遊びに来て下さい」とのことでした。週末を利用して訪ねる事になり、朝8時の高速バスに乗り2時間ぐらいで彼女が住んでいる南通（ナントン）の駅に到着しました。

彼女は結婚して今では大学で日本語の教師をしているとのこと。大学に行き、学生達をわざわざ集めて私を紹介し、私に日本語の指導をしてくれと頼まれました。思いがけず「にわか教師」をする羽目になりました。何を話せば良いか迷い、とりあえず日本の歴史を講義しましたが、今までこんなに緊張した事はなかったです。

午後、彼女の家の人や友人、親戚、総勢20人、ホテルで食事が用意されていて、みんな私に話しかけて来ます。彼女が私に「お父さん、聞いてわかりますか？」と（彼女は私を日本のお父さんと呼んでいます）。大体50%くらい理解できますが、詳しい事は解らないので彼女が訳してくれました。中国の人たちは人懐っこいし、冗談好き。とても楽しい食事会でした。彼女の両親は「今まであなたのような日本人に会う機会が無かった。」と言っていました。「南京の人だから日本人に対して特別な感情をもっているかもしれないですね。でも日本人にも色々な人がいますよ」と私は申しました。私は日本人も中国人も、もっと多くの友人を作れば日中の友好にもなると、今尚中国語を勉強している一人です。

仕事で中国にいる時は色々なストレスがありましたが、あの時の事は今でもはっきりと昨日の事のように覚えています。別れる時は「今度は奥様と一緒に来て下さい」と言っていました。今でも時々電話で話しています。高崎の国際交流協会でもこのような機会があれば良いかと、国際比較文化研究所の活動を振り返りながら思っています。

以上が太田一郎氏が寄せて下さった原稿です。多文化交流ではいつも言う事ですが、「プログラムはたった一週間程度で終わる。けれどもそれは終わりではなく本当の交流の始まりで、そこには一生続く可能性を持った交流が待っている。」太田さんはその良い実践例です。

### ②釜山外語大学学生との「多文化交流 in 釜山2010夏」

今年の夏のプログラムが決定しました。

#### プログラム概要

日時：2010年8月18日（木）～8月25日（金）7泊8日 JALで行く旅

参加費：11万5千円以内（旅行保険・一部食費等別途）その内申込金3万円

募集人員：20名（12名にて実施）申込順。定員になりましたら締め切ります。

申込締切：2010年6月15日 申込金：3万円（6月20日頃まで受け付けられます。）

参加資格：18歳以上の健康な方。 使用言語：日本語 集合・解散：成田空港

連絡先：特定非営利活動法人国際比較文化研究所 【責任者】太田敬雄

申込：totatakao@yahoo.co.jp 宛てに①氏名②フリガナ③ローマ字表記④生年月日⑤住所⑥電話

⑦メールアドレス（携帯・PC）⑧パスポートを既にお持ちの方はパスポート番号と有効期限をお知らせください。

※申込金（30,000円）は郵便振替でお願いします。振込用紙「多文化交流 in 釜山」参加申込金と明記して下さい。 振込先>>> 加入者名義：国際比較文化研究所 口座番号：00510-0-61974

お一人でも多くの参加をお待ちしています。

## 「多文化交流 in 釜山2010夏」スケジュール表

	時間	日 程	宿 泊	食事(団体)		
8月18日(水)	16:15 18:30 20:40 21:45 22:00	成田集合 成田発(成田空港) 日本旅行 JAL969 釜山着(金海国際空港) ホテル着 オリエンテーション(日程の説明) 交流会	ホテル			交流会・夕食
8月19日(木)	12:00	朝食 ※参加者 オリエンテーション(ホームステイ) ホテルフロント集合 ホームステイ出発	ホームステイ	朝食		
8月20日(金)		終日ホームステイ	ホームステイ			
8月21日(土)	12:00 午後	ホテル集合 (全羅道方面にホームステイに行く学生は翌日合流) 休憩時間 チンチルバン(サウナ)で疲れをとる。	(一部ホームステイ) ホテル			夕食
8月22日(日)	早朝	ホテル出発 ※参加者 全羅南道へ2泊3日旅行 (全羅道ホームステイの学生合流) 順天湾 民俗村	順天・民俗村	朝食	昼食	夕食
8月23日(月)		青鶴洞(昔の生活をしている場所へ)	青鶴洞	朝食	昼食	夕食
8月24日(火)	午前中 午後～ 19:00	釜山へ移動 釜山観光・買い物 お別れ会	ホテル	朝食		お別れ会
8月25日(水)	5:30 8:00 10:00	ホテル発 ※一般タクシー(ホテル→金海空港) 釜山発(金海国際空港) 日本航空 JAL960 日本着(成田空港) 解散				

### ■会員の活動紹介■

現在ガーナで翻訳者・中高教師として活躍している石坂紀子さんのガーナ便りを紹介します。

ガーナ便り<カバ保護園公園> 石坂 紀子 (Noriko Ishizaka) nori\_sunshine@hotmail.com

土日にウィッチマウにあるカバ保護公園に行ってきました。アッパー・ウェスト州都のワから南西にバイクで1時間くらいのところで、ガーナとブルキナファソ(隣の国)の境界です。川があって(川に水があることに驚いた・・・!)、川の向こう岸がブルキナファソでした。川の幅はそれほど広くなく、利根川くらいで、漁業用のネットがいたるところに設置されていました。私が住んでいるジラパの周りは雨季にならないと水が無い川しかないけど、さすがかば生息地だけあって、水が豊富な川です。

当日、ガソリンがガソリンスタンドに無い騒ぎをしつつ、何とかガソリンがあるガソリンスタンドを見つけ、水と食料を調達し、ボランティア総勢8人でバイクを連ねて出発。土のこぼこ道路を通過して、

カバ保護公園に着きました。カバ保護公園はこのコミュニティの事業で、プランというNGOの看板があることから、プランとのプロジェクトとしてできたのだと思います。受付でボランティア価格の3セ

ディを払い、ロッジかプラットフォーム（木の上）のどちらに泊まるかを決めて、現地のガイドさんについてバイクで保護地区内を走ること20分ほど。保護地区だから人は住んでいないのかと思いましたが、小さい村がいくつかあり、普通に人々が生活しているのにちょっとびっくりしました。かばは強暴だと聞いていましたから。昔はガーナ北部一帯にかばが生息していたらしいです。

私が泊まったのはロッジで、といっても、このあたりの人が住んでいる家の一部でした。当初はみんなプラットフォームに泊まる予定でしたが、受付の人によると定員6人らしいので、4人ずつに分かれて泊まることになりました。後から現れた他のガイドさんによると8人までOKだったらしいです。人によって情報が違うのはガーナでは当たり前。ロッジ組は、アイルランド人、ポルトガル人、オーストラリア人のVSOボランティアと私で、それぞれ違った経験をしてきているので、話に花がさきました。ローラはアイルランド出身だけあって、お酒が超強く、ジンをごくごく飲み、私がビール一杯で眠くなるという話に爆笑していました。

プラットフォームで寝ると、かばの泣き声や足音が聞こえるらしいです。ロッジは平屋で屋根が平らなため、なんと蚊帳と薄いマットレスを屋根に設置してもらって、満天の星空の下で寝ました！この時期、明け方は寒くなるので、ガーナに来て初めて毛布を使いました。でもこの時期は蚊も含め、虫全体が少ないので、とっても気持ち良く過ごせました。水、トイレ無しを覚悟して行きましたが、ロッジには水タンク（もちろん飲むことはできない）もトイレもあり、しかも電池式のランプも貸してくれ、なかなか快適に過ごすことができました。カバ保護公園のガイドさんたちはボランティアや観光客に慣れているんだなと感じられました。

朝は6時過ぎくらいから村の人が活動しだし、どこかの家の誰かが演奏するガーナの木琴の音が聞こえてきて、起床。起きてすぐにガイドさんが迎えに来て、すぐ出発するというのを5分待ってもらい、急いでティーブレッドという名の甘くないパン、バナナ、ピーナッツペーストを食べ、マラリア予防薬を飲んで、かばを見るためのボートツアーへと出発しました。

ロッジから歩くこと20分くらいで川に到着し、細いシンプルなボートに乗って探検出発！40分くらい川を下ったあたりで、水浴び中のかば一家に出くわしました。初めは岩かと思いましたが、よく見るとピンクの何かが動いている…。ピンクの何かはかばの耳でした。かばは一夫多妻制(?)で、一頭のおスと4頭のおメスと2頭の子かばを見ることができました。かばは夜、頭を寄せ合って鼻だけ水面から出して寝るらしい。ガイドさんの話によると、かばは陸上の哺乳類の中で象に次いで大きく、20年から50年生き、おスは4000キロ、おメスは3000キロ程度まで成長するらしいです。(寿命に20年も幅があるけど、これはまたガーナ情報ということで。ちなみに、動物園のかばは50年くらい生きると言っていた。)さすがに大きかった！お尻も！かば一家はワニのようにすいすい泳いで場所を移動せず、同じところで休んだり、もぐって草を食べたり、あくびをしたりしていました。1時間近く観察していましたが、その間ずーっと同じ場所にとどまっていた。ガーナではカバとこの地域の環境が保護されていますが、川を挟んだブルキナファソでは保護されていません。でも、カバの数は徐々に増えてきていると聞きました。やっぱり野生の動物を目にすると、興奮します。かばもさることながら、保護公園すべてがとても楽しい経験となりました。



p s : 最近の私の写真を添付します。フフという食べ物を作っているところです。(ゆでたヤム芋を搗いたもので、見た目は搗きたての餅に似ています。スープと一緒に食べます。おいしいですよ～)

(長文のため一部省略させて頂きました。)

手紙のあて先です。住所がないので、ガーナ教育委員会の私書箱を使っています。

Noriko Ishizaka

c/o Aaron Peeters Jirapa Ghana Education Service PO Box 14, Jirapa, Upper West Region, Ghana

## ☆会費納入とご寄付のお願い☆

振込用紙を同封しますので、研究所の活動をお支え下さい。年会費は個人が2000円です。研究所の活動のためにご協力をお願いします。今年度の会費未納の方にはその旨を記した振込用紙を、すでにお振り込み下さった方にはご寄付用の振込用紙を同封させていただきますが、決してご寄付を強要するものではありません。

研究所の活動は、出発時点では会員のための活動を主眼にしていました。しかし10年近くの歴史の中で活動範囲は多文化理解を外部の人々に積極的に訴えていく活動に変わりつつあります。皆さまにお支払いいただいている会費も、会の活動に実際に参加していただける方々のためだけではなく、会員以外の方々に働き掛けるための資金と変わりつつあります。多くの会の活動に参加出来ない会員にとっては、ニューズレター発行経費を除けば、会費は会の活動を支える寄付の様相を呈しています。その点をご理解の上研究所を支えていただければ幸いです。

マナパルの活動も、そのような新しい活動の一つです。

インドネシア人学生招聘事業も継続の予定です。このプログラムは全面的に皆様のご寄付に依存しております。日本語を積極的に学び、日本訪問を夢としているインドネシアの若者達のために新年度も宜しくお祈りします。

さらに、現在研究所に印刷機と紙折り機を設置出来ないか検討中です。現在はニューズレター等の印刷には前橋まで行かなければならない状況です。皆様のご理解とご協力をお願いします。

## 会費・寄付(2010. 3. 26. ~2010. 6. 6. )

敬称略、順不同で失礼します。なお、前回記載漏れがあり、別紙で挿入させていただいた方々のお名前を再度掲載させていただきます。またカッコ内はお振込みいただいた会費の年度です。二重にお振込みいただいた場合は次年度の会費としてお預かりしています。〈敬称略〉

〈新入会員〉 小山直美、櫻田桂一郎、長坂達彦、増田篤洋、鈴木智春。短い期間に五人もの新入会員を与えられて大変心強く感じております。どうか宜しくお祈りします。

〈会費〉 花盛勲一、有坂中央学園、佐俣英司、森泉宏昭、柴山享、前澤優子、櫻井なおみ、齋藤正典、齋藤和子、新井美弥子、大塚正子、岩本謙、永田強一、藤田隆 (10, 11) . 近藤佳代、黒田絢 (11)、村井田和夫、中島敬子 (9, 10) 大江士、佐藤貴雄、川口知幸、中村明佳、土屋操、高山昇、朝倉照雄、福崎結子、八木原悟、徳増弘子、岩井均、山本浩、佐野啓予、林恵美子、関口澄、堀越美津子、福田則行、中島宏則、木暮道子、前田申栄、上田暢子、篠田恵子、太田知子 (09, 10)、森泉孝行、太田琢雄、朴敬二、柏木恵、真下東雄、狩野真由美、野口紀子、幸田一彦、山縣英明、倉沢淑子。会費納入、有難うございました。研究所の活動を支え続けていただきありがたく感謝しております。研究所は皆さまのための研究所ですから、大いに活用していただけるよう頑張ります。研究所の活動に対して皆様の忌憚りの無いお声をお寄せ下さい。(特にカッコ記載のない場合は10年度分。)

〈「インドネシアより招聘」(多文化交流 in 関東) 指定寄付〉 森泉宏昭、中村明佳、福崎結子、長谷川昇、木暮道子。 昨年は約12万円ほど残す事が出来ました。参加者の様子を見ていますと今年も是非インドネシアからの招聘プログラムは継続して参りたいと思います。次回の「多文化交流 in 関東」(と名称を変更して実施しました)にこれまでも劣らぬご協力をお願いします。

〈マナパル 指定寄付〉 星野敏子、森泉宏昭、柴山享、村井田和夫、川口知幸、中村明佳、福崎結子、長谷川昇、木暮道子、幸田一彦、金井美由紀。心から感謝し、教育活動の支えとさせていただきます。

〈一般寄付〉 S・ジュティーン、森泉宏昭、岩本謙、櫻田桂一郎、大江士、川口知幸、中村明佳、朝倉照雄、佐野啓予、堀越美津子、長谷川昇、太田知子、真下東雄、匿名寄付、狩野真由美、野口紀子、森泉寿義雄、関千景、倉沢淑子。有難うございます。必要とされる所に有効に使わせて頂きます。

〈留学支援〉 櫻田佳容子。エヴァンズビル大学の語学集中講座に留学しました。充実した留学となることを願っています。

**編集後記:** いつものことだが、大慌ての編集となった。今月末の集りと、総会報告を早く皆様にお送りしたいため、今号は驚の宮卓話は休ませて頂いた。

**Newsletter 発行: 特定非営利活動法人国際比較文化研究所**

事務所: 〒379-0124 群馬県安中市鷲宮3413-3

電話: 027-382-5998 FAX: 027-382-6393

e-mail: [mtharunac@xp.wind.jp](mailto:mtharunac@xp.wind.jp)

HP: <http://www8.wind.ne.jp/mthac>

郵便振込口座番号: 00510-0-61974 名称: 国際比較文化研究所